

人集う場所

幡ヶ谷

東京都渋谷区の北

甲州街道に沿うようにできた集落は

『幡ヶ谷村』と称され

古くから人が住み続けた場所であった。

時代と共に、幡ヶ谷は変化した。

風景、名前、道、土地柄さえも。

その中でただ一つ変わらないのは、

『そこに人が集う』ということだ。

氷川神社例大祭

幡ヶ谷が村であった頃よりも昔、戦国時代にはその場に創建されていたといわれている幡ヶ谷氷川神社。幡ヶ谷地域の氏神として祀られ、村人たちからは産土うぶすなとしても大切に信仰されてきた大切な神社である。

毎年秋に行われている氷川神社例大祭では、商店街に出店が並び、神輿と山車が幡ヶ谷周辺を巡る。例大祭は地域がより一層活気を増す大行事となり、今でも受け継がれている。



六号通り・六号坂商店街

農村があった一帯は工業地帯へと変化し、さらに、すぐ近くの新宿が都心として発展していくと住宅地、商業地へと、幡ヶ谷の地は時代の波と共にあわただしく姿を変えていった。現在では六号通り、六号坂通り商店街が幡ヶ谷のシンボルとなり、両商店街合わせて約100店舗以上の店が軒を連ね、辺り一帯を賑わせている。

